

学位授与番号：甲 986 号

氏 名：古賀 実芳

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 27 年 3 月 11 日

学位論文名：

子宮筋腫患者における漢方医学的所見の検討

主論文名：

子宮筋腫患者における漢方医学的所見の検討

学位審査委員長：教授 岡本愛光

学位審査委員：教授 木村直史 教授 宇都宮一典

論文要旨

論文提出者名	古賀実芳 指導教授名 大野岩男
<p>主論文題名 子宮筋腫患者における漢方医学的所見の検討 古賀実芳・落合和徳・大野岩男、東京慈恵会医科大学雑誌、2015 ; 130(1)</p> <p>目的: 子宮筋腫患者を漢方医学的に観察し、子宮筋腫患者の漢方医学的な特徴について検討し、また経過観察中に治療方針が変更になる症例の特徴的な因子について検討する。</p> <p>対象と方法: 子宮筋腫と診断された 52 例を対象に、婦人科の治療方針により、経過観察群、偽閉経療法(以下 Gonadotropin releasing hormone agonist(GnRHa) 療法)群、手術治療群、GnRHa療法後手術群の 4 群に分けた。研究登録時の漢方医学的診断(証)の、治療方針群間の差異について検討した。検討した証は、気虚、気鬱、気逆、血虚、水滯、瘀血の6つで、寺澤らのスコアを用いて定量化した。経過観察群において、登録後2年間に医療介入が必要になった患者 7 名と、経過観察のままの患者 32 名の差異を前向きに比較検討しその関連因子を分析した。また、子宮筋腫の大きさの変化について、閉経前と閉経後に分けて証との関係を検討した。</p> <p>結果: 4 つの群の子宮筋腫患者を検討したところ、証の差異は無かった。経過観察群において、2年以内に医療介入の必要になった人を経過観察のままの人と比べてみると、筋腫の数と水滯スコアの影響があり、筋腫の数と大きさ、6 つの証スコアを因子とすることでより正確な判別ができた。経過観察から積極的治療へ移行するリスクとなる病態は、水滯と多発性の子宮筋腫であることに有意に関連していた。</p> <p>子宮筋腫の大きさは閉経前では血虚と気虚、水滯と関係があり、閉経後では気鬱と気逆に特徴があった。閉経前はスコアが高値なほど持っている筋腫は小さく、1年後の増大比も大きくなる傾向にあったが、瘀血だけは増大比がスコアが高くなるほど小さくなる傾向にあった。閉経後は血虚スコア、水滯スコアが大きいほど持っている筋腫は大きいが、縮小率も大きかった。しかし、気虚、気鬱、気逆の気に関する3証の証スコアは大きいほど増大率が大きくなり、閉経後でも子宮筋腫の増大傾向を示した。</p> <p>結論: 子宮筋腫患者の管理に漢方的診断である6つの証の所見を加味することの有用性が示された。また子宮筋腫の大きさの変化に、証との関係が示唆された。</p>	

論文審査の結果の要旨

古賀実芳氏の学位申請論文は主論文1編 副論文3編からなり、原題は「子宮筋腫患者における漢方医学的所見の検討」である。研究は総合診療内科 大野岩男教授の指導により実施、東京慈恵会医科大学雑誌130巻1号に発表された。

平成27年3月5日、審査委員長 岡本愛光および審査委員 木村直史教授、宇都宮一典教授の臨席のもとに公開学位審査会を実施し、古賀氏の研究概要の発表に続いて、口頭試験を実施した。口頭試験において以下のとおり質疑応答を行った。

1) 各証との相関は多変量解析で検討したのか。2) 寺澤スコアとはどのような根拠でスコアリングされたものか。3) 健常人や子宮筋腫以外の疾患と各証は相関することがあるのか。4) 水滞のスコア値が筋腫の大きさや縮小率と有意な関係があったが、この理由はどのようなことが考えられるか。5) 子宮筋腫患者の主な証とされる瘀血との関連は示されない結果となったが、桂枝茯苓丸以外の候補となる漢方薬はなにがあるか。これら含む20近くの質問に対して、古賀氏は適切に回答するとともに、関連する知見について幅広く意見を述べ実りある討議がなされた。その後、審査委員会において慎重に審議した結果、古賀氏の研究は、子宮筋腫での漢方診断である証の実態を明らかにし、子宮筋腫の治療方針の変更の判断や子宮筋腫の管理に、6つの証の所見を加味することの有用性を示し、子宮筋腫の病態を漢方学的に新しい知見を見いだした。

以上のことから、古賀氏の研究内容は学位論文として高く評価に値することを、審査委員全員の合意をもって認定した。